

Case2 (2020.12.14 報告)

70代 女性

主訴: 歩行困難、股関節痛

関わった医療機関(施設): 総合病院腎臓内科(人工透析)、同病院整形外科、ケア事業所、鍼灸院

歩行困難の改善、股関節痛の軽減を期待して鍼灸院に相談。往療で対応していたが、インフォームドコンセントや医療連携がうまくいかず、患者に不信感を抱かせてしまった症例。

寸評: 患者の治る期待値が高かったことと、現実にギャップがあった為に、患者に不信感を抱かれてしまったとの報告であった。今症例の患者は要介護3、人工透析を受けている事からも施術による改善は大きく見込めないのでは、という意見が多数でた。そのあたりのインフォームドコンセントが足りなかったのではないか、という意見もあった。

また、医療者間のコミュニケーションも足りなかったとの事から、医療者間でのポジティブフィードバックがあると治療効果に良い影響があったのでは、という意見が医師から出た。鍼灸からの患者情報提供もあった方が医師としては好ましいとの意見や患者のナラティブへのアプローチ「治らない病気を診ることが医学の神髄」という言葉への言及があり、理学的評価の重要性への意見もあった。